

テーマ

登呂遺跡×SDGs 「水田サポーター」活動



キーワード: 登呂遺跡、博物館、水田、米

○活動に取り組んだきっかけ・背景

国指定の特別史跡である登呂遺跡では、市民を募って弥生時代の水田跡を復元しています。本学の学生もそこに参加し、一年を通して米作りに取り組みました。

○活動の目的

教育学部生涯学習学科と造形学部で行っている授業「博物館実習」では、博物館の実務を学ぶだけではなく、博物館と地域、市民との関わりを実践的に学ぶことに取り組んでいます。登呂遺跡を管理する登呂博物館の「水田サポーター」に参加することで、水田跡の復元に貢献するとともに、弥生時代の自然にやさしい農作業や、文化、自然の遺産を保存・活用する方法などを学びました。

○具体的な内容

登呂博物館で用意いただいた田んぼ約 50 m²にて、登呂博物館学芸員や指導員、米農家の方々の指導を受けながら作業しました。初夏の代かき、田植え、夏場の草取り、そして秋の稲刈り、はざかけ、脱穀、粃摺り、藁縄づくり、そして収穫できたお米約 54kg を食べるまで、様々な体験をさせていただきました。弥生人の方法は、ゴミを出さない工夫されたもので、自然の理にかなっていることを実感できました。一方、その労働の大変さや、近年急増する外来生物の問題なども身をもって知ることができました。こうした活動を博物館が市民とともに行うことで、文化や自然の遺産を保護しつつ活用し、さらには SDGs の啓発にもつながることを学びました。

○期待される効果など

自然とともに生きた弥生人に学ぶことは、現在の環境問題を考えるさいに大きな示唆を与えてくれます。またそのために地域の資産である遺跡を活用することは、地域の再認識、再活性にもつながるでしょう。社会教育施設である博物館がそのために果たせる役割は大きいということを学生は学び、これからの活動に活かしてくれるものと思います。



教員名 堀切 正人

所属学部・学科 教育学部生涯学習学科

職位 教授



連携先

登呂遺跡

静岡市立登呂博物館